

平成28年度 群馬県立農林大学校評価システムシート

平成29年3月31日

目指す学校像		群馬県農林業の多様な担い手育成				新規取り組み事項		達成度	
重点方針		1 質の高い教育の実行 2 実績の上がる学生募集の実行 3 実績の上がる進路指導の実行 4 県民の期待に応えられる研修の実行						A 80%以上 B 60%以上80%未満 C 40%以上60%未満 D 40%未満	
番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント	
1	質の高い教育の実行	1 これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。  2 課題解決研究に取り組み、能動的に学ぶ力を育てている。  3 1年次は全寮制をとり、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育てている。  4 H29年度から、「農業コース」を地域農業や6次産業化をマネジメントする人材を養成する「農と食のビジネスコース」に、「森林・環境コース」を林業技術者の養成を重点とする「森林コース」に改編する。また、「野菜コース」「花き果樹コース」の定員を増やし担い手の育成を強化する。	・学生にとって分かりやすい授業の実施	・授業評価にもとづく授業方法の改善 コース専門科目での授業アンケート (H26:共通専門科目) (H27:教養科目)  ・よりよい授業のための研修実施 職場研修 作業機械の安全研修 派遣研修 新任者・指導者研修 OJT研修 先輩から学ぶ(ベテランと若手職員の連携)	・前期コース専門科目23科目実施(9月) 授業改善に役立てるため担当講師に結果報告 ・後期コース専門科目22科目実施(2月) 授業改善に役立てるため担当講師に結果報告 職員会議で結果の分析と対策を検討(3月)  ・職場研修 授業のすすめ方研修(4/20:新任指導職員4名) 作業機械の安全利用研修(7/21:7名) 発達障害者の理解と支援研修(8/19:28名) AED研修会(6/22:19名、7/15:16名、10/28:13名) 高度農業経営者教育機関(AFJ)の模擬授業(1/13:11名) ・派遣研修 指導職員新任者研修(6/21~24:1名) 農業メンター養成・発展研修(8/29~30:2名) ・OJT研修 先輩の授業方法を学ぶ(6~7月:3年以内職員5名) 高校教員OBから学ぶ(5/9、6/6、7/4:各35名) 2回の派遣研修から学ぶ(9/5、10/3:各35名) ・関東プロ教育方法担当者研修会(9/26・27:群馬県) テーマ:資格取得及び合格率の向上 農家派遣研修における課題		〈授業評価の継続実施〉 ・教養科目と共通専門科目で実施する。 〈数値目標の検討〉 ・学生の満足度評価を「普通」以上から「やや満足」以上に数値目標を高くする。 〈アクティブラーニングの導入プロジェクトの設置〉 ・学生参加型の授業導入を研究・試行する。 ・「グループワークの活用」  〈新任職員への支援体制の強化〉 ・講義・実習・課題研究・先進農林家等体験学習への取り組み方の研修を実施する。 ・OJT研修の改善を図る。 ・国等の研修へ積極的に派遣し、その成果や情報を授業改善に役立てる。	・高校でもアクティブラーニング的な学習を増やす動きがある。専門家を呼ぶ方法もある。また、現在行っているプロジェクト学習(課題研究の手法)を活かす方向もある。	
			・学生がやる気と自信の持てる教育	・能動的に学ぶ力を育てる 1人1課題の課題研究 (14年連続全国大会出場中:取り組み意識を高め、みんなで目指す全国1位)  意見発表 (課題研究発表会における意見発表で全国大会出場をめざす)  各種懸賞論文等への積極的な応募 (作文の補講)	・課題研究 第1回中間検討会(6~7月:コース別) 第2回中間検討会(10月:コース別) 校内課題研究発表会(11/24・25) 代表課題研究発表会(12/9:群馬会館) 関東ブロックプロジェクト発表会(1/19・20:4名茨城県) 全国プロジェクト発表会(2/14・15:8名運営他参加) ・意見発表 キャリアデザイン I で作文・小論文指導(4回) 夏休みに1人1課題の作文を作成 各コースの代表課題選定(10月) ・各種懸賞論文への応募 キャリアデザイン I で作文・小論文指導(4回) 夏休みに1人1課題の作文を作成 ・高度農業経営者教育機関(AFJ)による模擬授業 グループワーク(1/13:17名)		〈全国大会出場〉 ・連続出場は14年で途切れてしまった。課題研究への取り組み方法を検証し、連続出場を再スタートさせるため学生・職員の意識を改革する。 ・試験研究機関や団体等と連携して現場が抱えている課題について調査研究を進める。 〈アクティブラーニングの導入プロジェクトの設置〉 ・学生参加型の授業導入を研究・試行する。	・代表課題研究発表会を見たが、奥行きのあるテーマ、内容となるように指導することが重要と考える。	

番号	課題	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
				<p>・先進農林家等体験学習の効果的な実施 <u>進路を視野に研修先を選定</u></p> <p>・基礎学力向上のための補講実施 数学、英語、作文等</p> <p>・企画、販売力の学習強化 プロから学ぶ販売学習 販売実習 (校内:花と野菜の即売会、榛の木祭等) (校外:イオン高崎店、青空マルシェ、箕輪城まつり等) <u>6次産業化への取り組み</u></p> <p>・1分間スピーチによるプレゼンテーション能力の向上</p> <p>・学業優秀者、生活態度優秀者の表彰</p>	<p>・体験学習報告会(9~10月:コース別) 受け入れ先とのトラブルが4件発生</p> <p>・雇用就農を希望する学生はインターンシップを兼ね 研修先を選定(1年生)</p> <p>・先進農林家等体験学習の事前指導(コース別・全体)</p> <p>・数学 学力テスト(4月・9月:2回)を実施し、基準に達しない者と希望者を対象に補講を実施 前期:8回:28名受講 後期:8回:10名受講</p> <p>・英語 I 希望者を対象に実施(前期:12回:10名受講)</p> <p>・プロから学ぶ販売学習 <u>特別講演会①</u> 6次産業化の先進事例に学ぶ(7/5:1・2年生) 「つながりと多様性で地域をつくる」 瀬戸内ジャムズガーデン:H27年度6次産業化優良事例表彰農林水産大臣賞受賞 <u>特別講演会②</u> 地産地消の先進事例に学ぶ(1/13:1年生) 「食農連携を考える」 神戸ベイシェラトンホテルと地域の農業者の連携 <u>模擬授業(グループワーク)</u> 「県産農産物の販売戦略を考える」(1/13:17名) 高度農業経営者教育機関(AFJ)</p> <p>・校内販売学習 花と野菜の即売会(5/7:野菜、花き・果樹コース) 榛の木祭(11/12・13)</p> <p>・校外販売学習 市川食品での直売会(6/5:2名) <u>青空マルシェでの直売会</u> (7/3、11/6、12/4、2/5、3/5:各回学生2名) イオン高崎店での直売会(9/16:6名、10/28:6名) <u>地域イベント「きつねの嫁入り」</u>(10/2:2名) 地域イベント「箕輪城まつり」(10/30:2名)</p> <p>・キャリアデザイン I で指導と発表(1年生:66名) ・キャリアデザイン II で指導と発表(2年生就職班:57名) ・代表者による発表 7/15:2年生 10名(全校集会) 12/27:1年生 6名(全校集会) 2/22:1年生 5名(学年集会)</p> <p>・各種褒賞等授与式で表彰(3/22) 学業成績優秀者 1年生:5名 2年生:5名 生活態度優秀者 1年生:5名</p>	<p>〈研修先の選定〉 ・雇用就農を考える学生はインターンシップを兼ね実施することをすすめる。 〈事前指導の徹底〉 ・取り組み姿勢を理解していない学生が受け入れ先とのトラブルを発生する事例もあり、事前指導を徹底する。</p> <p>〈学びなおしで基礎学力向上〉 ・授業や実習を円滑に進めるため、基礎学力の不足している学生への補講を継続する。 ・2年生の受講率を高める。</p> <p>〈販売学習の強化〉 ・イオン高崎店や青空マルシェなどを活用し、「農と食のビジネスコース」を中心に、農林大生産物の企画販売や調査研究を行う。 〈地域貢献活動に取り組む〉 ・群馬県育成品種や地域特産物を活用した商品開発をめざし、技術習得や6次産業化に取り組む起業等と連携を図る。</p> <p>〈表現能力の向上〉 ・より多くの学生に多くの人の前で話す経験の場を設ける。</p> <p>〈褒めて伸ばす教育〉 ・学生のやる気を高めるため、各種表彰を継続して実施する。</p>	<p>・体験学習でトラブル4件は多いのではないか。雇用就農する学生が減ったのはこのことの反映。インターンシップで就職活動は始まっている。トラブルをなくして雇用就農を増やしてほしい。</p> <p>・小学校3年の分数あたりから躓いてしまうケースがある。専門の学習に必要なということ、学生のプライドを傷付けないように指導してほしい。</p> <p>・消費者のニーズを作っていく必要もある。加工品もこれではいけないと思われものを作ればピーターになってもらえる。</p>	

番号	課題	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
			・社会生活の基本を身につける	<ul style="list-style-type: none"> <li>寮生活をとおして規律、協調、思いやりの精神を育む</li> <li>学生、職員一体となったあいさつ運動の実施</li> <li>地域住民と連携し、社会貢献活動に取り組む 箕輪城まつりへの参加と環境整備活動 <i>地域の即売会への参加</i></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導職員による宿直指導(4~5月)</li> <li>生活相談員による指導(周年)</li> <li>1年生 メンタルヘルス面談(5月)</li> <li>1年生 コース三者面談(11月~1月)</li> <li>職員からの積極的な声かけ</li> <li>生活指導職員による通学時の声かけ</li> <li>学生自治会と城山入り口フラワークラブと連携した花づくり菜の花の片付け(6/3:2名)</li> <li>コスモス(7/11:は種20名、9/6:追肥14名)</li> <li>種子の無料配付(10/30:菜の花・コスモス)</li> <li>自治会による地域行事への参加 <i>第15回みのわの里のきつねの嫁入り(10/2:3名)</i></li> <li>第14回箕輪城まつり(10/30:10名)</li> <li>地域即売会への参加 市川食品こんにやく祭り(6/5)</li> <li><i>青空マルシェ(7/3、11/6、12/4、2/5、3/5:各2名)</i></li> <li><i>第15回みのわの里のきつねの嫁入り(10/2:2名)</i></li> <li>第14回箕輪城まつり(10/30:2名)</li> <li><i>小学生への花づくり指導</i> 箕輪小5・6年生対象(10/18:花き・果樹コース4名)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>〈寮生活をとおした自律の支援〉</li> <li>・はじめての共同生活での不安やストレス対策の面談は継続する。</li> <li>〈あいさつ運動の継続〉</li> <li>〈地域貢献活動〉</li> <li>・地域行事や環境整備に積極的に参加する。</li> </ul>	
			・教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮、機械設備、施設の改善 森林・環境Cの現場教室改修 農業C現場教室女子トイレ増設</li> <li>運転練習コースの改修 <i>加工施設整備の検討</i></li> <li>寮の生活環境改善</li> <li>・キャンパスの環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業コース現場教室に女子トイレ設置(7月)</li> <li>・放送設備の改修(8月)</li> <li>・運転練習コース区画線舗装修繕(8月)</li> <li>・森林・環境コース現場教室の改修(9月)</li> <li>・機械格納庫修繕(11月)</li> <li>・加工実習室の施設・設備整備(3月) (施設整備:農業経営者育成教育事業:1/2国庫)</li> <li>・女子風呂場棟に洗濯機・乾燥機各2台新設(4月)</li> <li>・女子寮ベッドを木製に交換 (10/28:モニタールーム設置、3/2全室交換)</li> <li>毎月学生職員で清掃を実施</li> <li>・花壇の整備</li> <li>・学生駐車場の整備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>〈教育施設の整備〉</li> <li>・教育施設・設備を充実させる</li> <li>・施設の改修・改善を計画的にすすめる。</li> <li>〈寮生活の改善〉</li> <li>・快適な生活環境(食・住)づくり</li> <li>・寮施設の改修・改善を計画的にすすめる。</li> <li>〈環境整備の継続〉</li> </ul>	
		(数値目標と評価)	◎学生の授業満足度:「総合評価」普通以上 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期コース専門科目23科目 普通以上評価 92.7% (やや満足以上評価 73.4%)</li> <li>・後期コース専門科目22科目 普通以上評価 93.6% (やや満足以上評価 77.0%)</li> </ul>	A			
			◎課題研究発表会関東大会の上位入賞(全国大会出場) 1名以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究・意見発表とも全国大会に出場無</li> </ul>	D			
			◎懸賞論文等への応募者 3名以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4名(1年)がヤンマー懸賞論文に応募 入選者無</li> </ul>	A			



番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
2	実績の上がる学生募集の実行	<p>1 入校生の定員は確保されていない状況(H28年度入校生68名/定員100名)にある。</p> <p>2 近年の入校生の状況は、非農家出身者の増(H28年度入校生:78%)、女子学生の増(H28年度入校生:26%)が特徴となっている。</p> <p>3 本校入校生の約6割が農業高校出身者(H28年度入校生:55.9%)であり、農業高校との連携が重要となっている。</p> <p>4 時代の変化や高校生のニーズにもとづき、H29入校生からコースを改編する。</p>	<p>・入校希望者や保護者への農林大学のPR <i>コース改編の周知</i></p>	<p>・魅力あるオープンキャンパスの開催 <i>学生が中心となった運営による開催</i></p>	<p>・学生が中心となった運営 学生と職員による実行委員会の設置 ガイダンス班、寮見学班、学校見学班、学校装飾班、試食コーナー班を設置し、実行委員会6回開催 第1回(7/27:学生25名) 第2回(8/3:学生16名、後援会5名) 第3回(8/10:学生17名、後援会4名) 第4回(9/3:職員で対応)</p>	<p>〈学生が中心となった運営の継続〉 ・学生目線で農林大の魅力を伝え、入校生の増につなげる。</p>	<p>外部評価委員会からのコメント</p>	
				<p>・県内高校への学生募集訪問 <i>全職員での取り組み</i></p>	<p>・前期高校訪問(6月:全職員:71校) 学生募集・コース改編・オープンキャンパス等の案内 ・後期高校訪問(9月:全職員:70校) 農と食のビジネスコースの改編を主に案内 ・一般入試(後期)対策高校訪問(1月:17校) ・高校進路相談会(18回) 5/18:桐西(2名)、5/27:富実(5名)、6/7:勢農(46名) 6/8:富実(1名)、6/10・7/8・15:藤北(14名) 6/13:尾瀬(1名)、6/20・7/5:大泉(6名) 7/4:中之条(7名)、7/6:明和(18名)、10/13:玉村(2名)、12/2:松井田(3名)、12/7:榛名(7名)、12/8:太工(6名)、12/13:安総(6名)、1/12:桐西(1名) 3/10:中之条(7名)、3/16:榛名(6名)、3/17:勢農(57名) ・H30募集用学校案内の充実 <i>外部委託:8→12p、4,000部</i></p>			<p>〈農林大への理解促進活動〉 ・高校の進路担当職員に農林大を知ってもらい進路指導先として位置づけてもらう。 ・高校生に本校の魅力を伝える工夫。</p>
			<p>・ホームページの充実強化 <i>タイムリーかつ細やかな情報発信</i></p>	<p>・タイムリーかつ細やかなHPの更新 行事等ごとの作成担当と更新担当による連携作業 ・セキュリティ対策と見やすいHP作成の検討 (担当者会議4/11、8/3、11/1) ・HPの充実検討</p>	<p>・学生の出身高校への派遣講義で農林大の生活を紹介 6/24:利根実業高校 1年生83名 7/7:伊勢崎興陽高校 3年生198名 ・高校職員に会議や農林大見学会で、不安解消をPR ・入校希望者にオープンキャンパスで、学生から寮生活の楽しさをPR。 ・保護者にオープンキャンパスで、後援会役員から学生が楽しく生活している様子をPR</p>	<p>〈HPの改善〉 ・見やすい、分かりやすいHPに改善する。</p>	<p>〈寮生活の不安解消〉 ・効果的な不安解消策を検討し実施する。</p>	<p>・学生食堂の食事が不評と聞いている。入校生を増やすためには、在校生などから、寮生活が楽しいとPRしてもらうのはよいが、食事もおいしいとPRできないといけないのでは。</p>
		<p>・農業高校との連携強化 <i>コース改編の周知</i></p>	<p>・連携会議等を通じた情報交換</p>	<p>・学校教育と行政との連絡会議(5/30、6/17) ・高等学校職員による農林大学校見学研修会(7/28)</p>	<p>・中之条高校(4/13:2名 3年生) ・松井田高校(6/3:80名 1年生) ・桐生第一高校(11/7: 97名 2年生) ・富岡実業高校(1/11:31名 1年生)</p>	<p>〈農林大への理解促進活動〉 ・高校の進路担当職員に農林大を知ってもらい進路指導先として位置づけてもらう。</p>	<p>・高校生に本校の魅力を伝える工夫。</p>	

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
				・職員による派遣講義で農林大の魅力を伝える	・勢多農林高校(6/7:28名 2年生) 「超ミニアジア栽培の取り組み」 「くだものの適地が変わる」 ・大泉高校(12/5、12/8:116名 2・3年生) 「虫で害虫を叩く／超ミニアジアの開発」 「美味しいトマトの作り方」 「身近な生物学の話」 「二酸化炭素(CO2)で花は変わる」 ・中之条高校(12/12:60名 2・3年生) 「身近な生物学の話」		・高校生に本校の魅力を伝える工夫	
		(数値目標と評価)		◎オープンキャンパス参加者数 延べ160名	・オープンキャンパス参加者 延べ196名(実141名) 7/27:88名、8/3:57名、8/10:39名、9/3:12名	A		
				◎高校訪問 2回以上実施	・前期、後期(2回) 計3回	A		
				◎HPの更新回数 45回以上	・更新回数 81回	A		
				◎定員の確保		B		
3	実績の上がる進路指導の実行	1 H27年度卒業生の進路決定率は98.7%で、進路決定者のうち就農41.9%(森林・環境C除く:52.6%)、就職50.0%、進学8.1%であった。農林業団体への就職が良好であったことと、編入学者が多かったことが特徴である。  2 就農率は近年約40%で、うち雇用就農は40~50%(H23~26年度卒業生)であったが、H27年度卒業生の雇用就農者は就農者全体の64%と高かった。	(1年生) ・進路希望の把握と進路指導体制の強化	・個別面談による進路の把握  ・進路ガイダンスによる進路指導  ・社会人としてのマナーアップ講座等の開催  ・進路方向の決定と進路別指導  ・学内企業説明会の開催  ・就農準備への支援 海外研修への参加誘導 給付金事業の活用	・1年生 メンタルヘルス面談(5月) ・1年生 校長面談(10月) ・1年生 コース三者面談(11月~1月)  ・キャリアデザイン I で進路指導(13回) 進路・ライフプランを考える 作文・スピーチ指導 雇用状況・労務管理 就活応援セミナーなど ・進路ガイダンス(1年生) 第1回 11/9 卒業生進路活動報告会等 第2回 12/27 先輩による進路内定者報告会等 第3回 2/22 学内企業説明会事前指導等  ・メーキャップ講座(2/21:1年女子学生) ・マナーアップ講座(2/22:講師:洋服の青山)  ・進路調査(4回:7・9・11・2月) 就農希望者 21名(就農:7名、雇用就農14名) 就職希望 42名 (2月末調査)  ・学内企業(農業法人)説明会(9/29:8社) ・学内企業説明会(3/17:53社)  ・海外研修 キャリアデザイン I で海外研修の魅力を周知(2回) コース職員、掲示板等により誘導と周知 海外研修希望者 2名 ・給付金 青年就農給付金 説明会(6/16)を開催し周知 12月申請希望者へコース職員からの周知(10月) 緑の青年就業準備給付金 コース内で説明を2回(5・6月)行い周知		〈進路の早期決定と支援〉 ・学生の希望を的確に把握し、保護者と情報共有を図り支援を円滑にすすめる。  ・自己分析や情報収集等の指導により、意識付けと進路方向の決定を早期に誘導する。  ・進路希望調査(4回)を継続する。  〈就職活動の支援〉 ・学内企業説明会の継続。  〈世界を視野に入れた農業の展開〉 ・就農者に海外研修を積極的にすすめる。  〈制度の活用推進〉 ・新規就農、雇用就農、林業関係就業予定者に制度の説明と活用の推進を図る。	・雇用就農先には、ブラック企業のようなものもある。使い捨てにならないよう調査、情報収集してほしい  ・青年就農給付金(準備型)が海外研修1年を含め最大3年間の制度になる。海外研修希望者がいれば活用を勧めてほしい。

番号	課題	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
			(2年生) ・きめ細やかな進路別指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農者・雇用就農者への支援 <b>農業法人の学内企業説明会開催</b> <b>海外研修への参加誘導</b> <b>給付金事業の活用</b></li> <li>・就職活動進捗状況の把握と支援 面接指導 幹部による企業訪問</li> <li>・編入学希望者への支援 英語の補講 小論文作成指導 面接指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内企業(農業法人)説明会(9/29:8社 14名)</li> <li>・海外研修 コース職員、掲示板等により誘導と周知 国際農業者交流協会アメリカコース 1名合格</li> <li>・高度農業経営者教育機関が実施する農業経営力養成講座への派遣(12/5~7:2名)</li> <li>・給付金 青年就農給付金 農業構造政策課担当による説明会(6/16:28名) 12月・2月申請説明会(10月、12月) 緑の青年就業準備給付金 コース内で説明し周知(5月)</li> <li>・2年生 校長面談(6月)</li> <li>・就職試験対策面接指導(79回)</li> <li>・幹部による企業訪問(7~8月:26社)</li> <li>・キャリアデザインⅡで就農・就職の進路希望別に指導 就農班(16名):営農計画の作成、先進農家視察等 就職班(57名):面接、就活セミナー、スピーチ指導等</li> <li>・マナーアップ講座(2/22:講師:ハローワーク)</li> <li>・英語Ⅰ補講(12回:10名受講)</li> <li>・面接指導(4回)</li> <li>・合格者1名(弘前大学)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>〈世界を視野に入れた農業の展開〉 ・就農者に海外研修を積極的にすすめる。</li> <li>〈制度の活用推進〉 ・雇用就農、林業関係就業予定者に活用を推進する。</li> <li>〈キャリアサポートの充実〉 ・就農、就職別に支援の継続。 ・関係機関との就農者情報の共有を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他県の農大では、指導農業士が向いて農業の良さを直接伝えている。要請してもらえば我々も来易い。独立就農したい人にも相談に乗れるので経営士を活用してほしい。</li> </ul>
			・専門資格取得教育の充実強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補講の実施 毒物劇物取扱者資格 危険物取扱者 簿記検定他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業技術検定 キャリアデザインⅡで受験対策指導(3回) 各コースで受験対策指導(随時)</li> <li>・毒物劇物取扱者 応用化学Ⅱで受験対策指導(8回:23名受講)</li> <li>・危険物取扱者乙4 応用化学Ⅰで受験対策指導(8回:34名受講)</li> <li>・商業簿記2級 補講指導(前期:30回:7名、後期:10回、5名)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>〈合格率の向上〉 ・資格取得のための指導、支援方法の検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業技術検定は高校でも3級を取らせている。農林大では是非2級に取り組んでほしい。</li> </ul>
		(数値目標と評価)		(2年生) ◎進路決定率 100%	・進路決定率 98.6%	A		
				◎就農率 50%以上	・就農率 38.6%	B		
				◎林業関係の就業率 60%以上	・就業率 37.5%	B		
			(1・2年生) ◎青年就農給付金(準備型)、緑の青年就業準備給付金受給者 10名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年就農給付金受給者 12名 継続受給者1名(2年生) 新規受給者11名(1年生:6名、2年生5名)</li> <li>・緑の青年就業準備給付金受給者 7名 継続受給者2名(2年生) 新規受給者5名(1年生)</li> </ul>		A		
			◎日本農業技術検定(2級)の合格率 H28全国平均以上 (H27:全国平均21%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期合格率 6.4%(全国平均19.3%)</li> <li>・後期合格率16.7%(全国平均17.8%)</li> <li>・H28合格率 11.2%(全国平均18.5%)</li> </ul>		B		
			◎合格率 毒物劇物取扱者 40%以上 危険物取扱者乙4 30%以上 商業簿記2級 30%以上 機械系資格 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毒物劇物取扱者 40%</li> <li>・危険物取扱者乙4 16.7%</li> <li>・商業簿記2級 15.4%</li> <li>・機械系資格 100% (大型特殊農耕車限定、フォークリフト、建設機械)</li> </ul>		A C C A		



番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1 「野菜専門技術課程」「野菜基礎技術課程」「花き入門課程」「果樹入門課程」の4課程を設け、うち「野菜基礎技術課程」を5コースに細分するなど県民ニーズに対応した再編を図り、計142名が受講した。  2 農業機械研修の最近の傾向として高齢者、女性、雇用就農者の受講希望が多くなっている。  3 家庭菜園、庭木の管理、農産加工等23講座に845名が受講した。また、幼稚・保育園児に農や食の大切さを学んでもらうため、食農体験学習「農と食の生き生き体験こども塾」を実施し、27年度は計96名の子供達が参加した。	・ぐんま農業実践学校の県民ニーズに対応した充実強化	・円滑な就農に向けた体系的な研修の実施	・HPやぐんま広報等により実践学校の入校者を募集したところ1.2倍の応募があり、面接・書類審査により入校者を決定した。 (入校者/修了者/定員)2月末現在 野菜専門技術課程(18名/1名/20名) 野菜基礎技術課程(5コース)(105名/95名/105名) 花き入門課程(8名/8名/10名) 果樹入門課程(10名/9名/10名) ・定員充足率は97.2%(入校者:141名/定員:145名) ・農業機械研修や視察研修を多く取り入れるなど、修了者率を高めることができた。		・募集人員を上回る応募があり、野菜専門技術課程の平均年齢は、41.4歳と若いこと、定年帰農者コースの応募者が多いことが特徴である。 ・経営面に重きを置くなど、満足できる研修を実施する。	・ぐんま農業実践学校については実際に就農に役立っていると喜んでいる人が同級生にいた。
			・JA等と連携した産地を担う農業者の育成	・JAの農業基礎講座と連携し、産地の担い手を育成するため、JA赤城たちばなの農業基礎講座修了生3名が実践学校に入校し、修了した。	・JAと連携し、産地の担い手育成の取り組みを進めた。今後は就農支援や連携の定着化のための具体策の検討をする。			
			・農業機械研修の実施	・農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得	・免許取得研修は計画どおり実施した。 大型トラクター基礎研修(8回/計画8回) 大型トラクターけん引研修(2回/計画3回) ・高齢者、女性、雇用就農者の受講生が増えている。 ・事故の防止のため、農業機械の定期的なメンテナンスを実施した。	・大型トラクター免許研修の充実。 ・農繁期(10月)に行っていた大型トラクター基礎研修を行わず、安全研修に充てる。		
			・農業機械女性農業者研修の実施	・H27年度に、国の交付金を活用して実施した「女性農業者等農業機械研修」を引き継ぐ形で、女性農業者を対象に、11月25日(基礎研修10名)、12月21日(中級15名)実施した。	・安全研修、免許取得研修を組み合わせ実施し、大型トラクターの免許取得者を増やしていく。			
			・農作業安全の推進	・小型トラクター研修(4回:37名/計画2回)、小型農業機械研修(1回:18名/計画2回) 農業機械安全利用研修(17回:349名/計画16回)を実施した。 ・農業機械安全利用研修は、農業事務所、JAでの基礎講座や生産部会での研修要請が増えている。	・農業事務所等から研修要請が多くなっているが、引き続き対応する。	・外部からの研修要請等には積極的な対応をお願いしたい。		
			・県民を対象とした講座等の実施	・県民ニーズに合わせた公開講座の実施	・前期5講座・後期5講座/定員370名を募集した結果、991名の申し込み(2.7倍)があり、1講座については追加開催を計画した。「野菜づくり」講座は、前年度の意見を反映させ、3回連続講座とし、満足度を高める工夫をした。 ・10講座(応募者991名、受講決定者482名、出席者432名)で出席率89.6%、講座満足度評価では満足以上が94.5%であった。	・農林業に対する理解促進を図るとともに、農林大学校への理解を深めることを目的に実施してきたが、事業再編により後期は、野菜づくり講座等に重きを置いて開催する。		
			・食農体験学習の推進	・近隣の幼稚園、保育園を対象に、農と食の大切さを学んでもらうため実施している。参加募集したところ、6園が応募し、近年の応募及び実施状況を考慮して3園を選定した。 ・ひばり幼稚園(30名3回)、榛東北部保育園(23名3回)、榛東村立南幼稚園(32名3回)が来校し、サトイモの植え付け、乳牛とのふれあい、トマト・キュウリ等の除草、収穫、試食の体験をした。				

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
		(数値目標と評価)		◎実践学校研修生の満足度 評価「満足」以上 80%以上	◎評価「満足」以上 野菜専門技術課程 100% 野菜基礎技術課程 94.6% 花き入門課程 87.5% 果樹入門課程 80.0%	A A A A		
				◎実践学校研修修了率 100%	◎研修修了率 野菜専門技術課程 94.4% 野菜基礎技術課程 90.4% 花き入門課程 100% 果樹入門課程 90%	A A A A		
				◎野菜専門技術課程就農計画 作成 100%	◎就農計画作成 100%	A		
				◎野菜専門技術課程就農率 90%以上	◎就農率 94.1%	A		
				◎大型特殊自動車免許等取得 合格率 100%	◎免許取得 合格率 大型トラクター基礎研修(100%:8回) 大型トラクターけん引研修(100%:2回)	A A		
				◎運転免許研修中の事故発生 率 0%	◎事故発生率 大型トラクター基礎研修(0%:8回) 大型トラクターけん引研修(0%:2回)	A A		
				◎農業機械研修受講女性数 20名	◎受講女性数 25名	A		
				◎農業機械安全研修の開催回 数と受講者数 16回/160名	◎安全研修開催回数と受講者数 17回/349名	A		
				◎公開講座の開催数と受講者 数 10講座/370名	◎講座の開催数と受講者 10講座/432名	A		
				◎公開講座受講生の満足度 評価「満足」以上 80%以上	◎受講生の満足度 10講座 満足以上 94.5%	A		
				◎食農体験学習の満足度 評価「満足」以上 80%以上	◎満足度 体験学習の満足度 100%	A		